

WOODRISE2025 参加レポート

2025 年 10 月 28 日
一般財団法人 ベターリビング
総合企画部長 鶴添 博士

カナダ バンクーバーにて開催された WOODRISE2025（2025 年 9 月 23 日～24 日）へ参加してきました。

1. WOODRISE2025 について

この度「WOODRISE 2025 バンクーバー（カナダ）」へ日本訪問団（事務局：一般社団法人国際住宅建築都市産業協会）の一員として参加しました。WOODRISE は木造建築の発展に向けた世界的交流を主な目的として、フランスとカナダの研究機関により提唱されて始まった会議であり、日本を加えた 3 か国が幹事国となり、2 年に 1 度大会を開催しているものです。これまで、第 1 回は 2017 年にボルドー（フランス）、第 2 回は 2019 年にケベック（カナダ）、第 3 回は 2021 年に京都、2022 年に東京（コロナ禍により分離開催）、第 4 回は 2023 年にボルドーで開催され、そして今回、第 5 回として 2025 年にバンクーバーにて開催されました。<https://woodrise2025.com/>

バンクーバーはカナダ西海岸ブリティッシュ・コロンビア州に位置する人口約 66 万人（2021 年）、カナダで第 3 の都市です。太平洋に面し、海と山に囲まれており、原生林がそのまま残っているスタンレー・パーク（405ha）など自然豊かな環境にあります。2010 年には冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。



バンクーバー位置図



オリンピック聖火台



会議場：コンベンションセンター

2. 会議

会議は 9/22 17:00～の基調講演・歓迎レセプションを皮切りに 9/23～24 に開催されました。参加国は 25 か国以上とのことです。

会議のテーマは「中高層建築物への木造の採用」です（筆者理解）。木材は CO₂ 削減など環境負荷低減に非常に有効であるものの、耐震性、耐火性、耐久性（地域によっては耐虫性も）など日本でも導入には課題が多いとされているテーマについて、マスティンバー（Mass Timber：複数の木材を接合・積層して作られた大型の木製構造部材。集成材の一種で、従来の木材では難しかった大型化や高層化を可能にし、圧縮・張力強度が安定しているのが特徴）を活用した民間事業者による事例

紹介や行政による規制誘導、大学等による学術研究等についてプレゼンテーション、意見交換が行われました。日本からも国土交通省、住友林業(株)、東京大学、京都大学の方々が登壇しました。



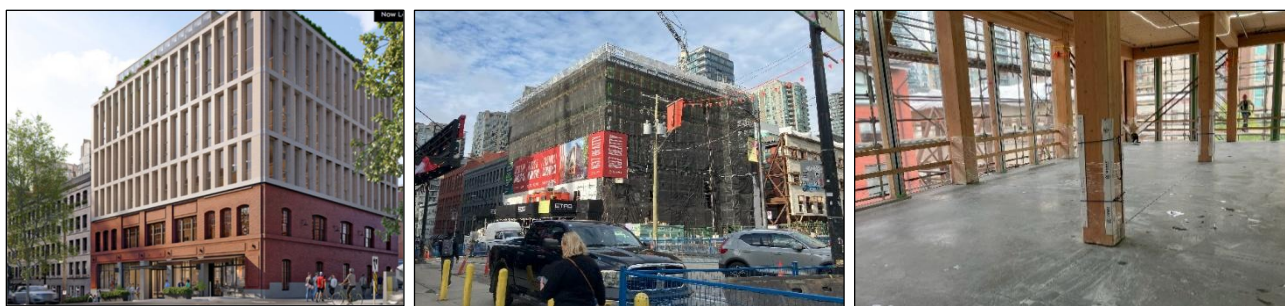
会議の様子

3. 視察会

9/25～26 に日に事務局主催で視察会（4か所）が行われました。ここではそのうち、「837 BEATTY STREET」を紹介します。

100 年前のレンガ倉庫（地上 2 階・地下 1 階）を地上 6 階に増築するプロジェクトです。1911 年に専用倉庫として建設された当該建物は、ダウNTOWN中心部で鉄道が通っている多くの倉庫ビルの一つでした。この建物は当初から 4 層の増築が可能になるように設計されており、その構想を継承して 100 年度に実現しようとしているものです。元の建物のレンガ造耐力壁と木材の柱梁の混構造を維持し、新しい増築部分は積層マスティンバー構造システムを使用して建設中です（コアとなる EV・階段は RC で増設）。建物用途は倉庫から商業・業務へと転換されます（1フロア約 700 m²）。<https://837beatty.ca/>

他、建設中の集合住宅（9 階建）や完成・利用中のオフィスビル（3 階建）、ブリティッシュ・コロンビア大学の研究施設、学生寮（18 階建）を視察しました。建物はいずれも混構造であり、どこまで木造を取り入れられるかが現時点の課題と感じました。



837 BEATTY STREET（左：完成予想図 中央・右：工事中的様子）

4. おわりに

今回は 2027 年に奈良市で開催予定です。今後も引き続き、各国が木造建築の普及と建築分野における脱炭素化に向けた様々な観点からのアプローチについて、このような国際会議にて発信・交流し発展につながることを期待します。